

備えていますか ペットの災害対策

大規模地震が起きたときは、人だけでなくペットも被災します。住まいの地震対策は十分か、被災時にどこへ避難すればよいか、何を持ち出すのか、ペットについても家族で話し合い、今日から「ペット防活」を始めましょう。

今日から
始められる
ペットの
ぼうかつ
「防災活動」

まずは自宅の災害対策を

在宅避難のすすめ

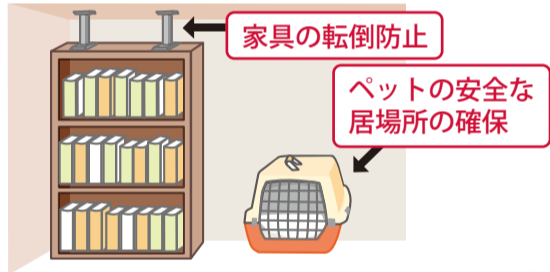
地域の人口に対し、地域防災拠点(避難所)で受け入れられる人数は限られています。自宅に倒壊や焼失などの被害がなく、二次災害の恐れがなければ、飼い主もペットも「在宅避難(自宅にいて、情報や足りない物資を避難所で得る)」をしましょう。避難所の慣れない生活環境より住み慣れた自宅の方が、人もペットもストレスが少なく避難生活を送れます。



ペットの居場所は安全ですか

災害時にペットを守るためには、まず飼い主が無事であることが大切です。住まいを災害に強くしておくことが、一緒に暮らすペットの安全にもつながります。

普段ペットがいる場所に危険はありませんか。家具が倒れないか、ガラスが飛散しないかなど、地震に備えて家の周りや部屋の中を点検しましょう。



備蓄はしていますか

ペットの救援物資はすぐには届きません。最低5日分の食料や生活用品を準備しておきましょう。特に、薬や療法食が必要な場合は命に関わるので、必ず備蓄をしましょう。

避難所にはペットのためのケージや備蓄品はありませんので、必ず飼い主がそのペットに合った防災グッズを用意しておきましょう。



持ち物チェックリスト

犬・猫の場合(例)

- 連絡先が入った首輪や迷子札、鑑札など
- リード
- 水(水飲み皿)、フードの買い置き5日分
- キャリーバッグかケージ
- トイレシート、新聞紙、うんち袋
- 飼い主の連絡先、ペットの写真
- 薬、救急セット など

※ペットの種類によってそれぞれ必要な持ち物が変わります

自宅で生活できなくなったときは

ペットとの避難

自宅が被災して生活ができなくなったときは、ペットと一緒に避難所へ避難します。これを「同行避難」と言います。

避難所でのペット受け入れについては、管理運営者の指示やルールを守らなければなりません。「もしも」のときに備えて、ペットと同行避難できる準備をしておきましょう。



避難準備

① 飼い主の明示

災害時に迷子になったペットを探すときや保護されたとき、必要となるのが識別情報です。迷子札やマイクロチップの装着など、飼い主を明示しましょう。

② しつけ

他の避難者の理解を得るためにも、基本的なしつけや訓練をして、社会性を身に付けさせておきましょう。

③ 健康管理

ワクチン、狂犬病予防接種(犬の場合)、ダニ・ノミの駆除などを日頃からしておきましょう。



避難所での生活

飼い主と同行避難したペットの受け入れ後の対応は、避難所によって異なります。

多くの人々が共同生活を送る避難所では、他の避難者の理解が得られるよう飼育する必要があります。特に、動物が苦手な人やアレルギーのある人などもあるので、ペットの鳴き声や毛の飛散、臭いなどへの配慮をしましょう。

○「別居」タイプ

避難者の居住スペースとは別の場所に設けられた「ペット一時飼育場所」では、飼い主が用意したケージやキャリーバッグの中で飼育することになります。ケージの中で生活できるよう訓練しておきましょう。

○「同居」タイプ

ペットの病気や老齢などの理由で、別居が困難となることも考えられます。このような場合、校庭の一角にテントを張ったり、建物内に同居スペースを設けたりして、飼い主とペットと一緒に避難生活を送ります。

ただし、避難所によってルールが異なるため、同居が可能かどうか、住まいの地域の訓練に参加するなどしてあらかじめ確認しておきましょう。

いざというときの預け先を確保しておきましょう

人にとってもペットにとっても、避難所生活は過酷なものです。ストレスから病気にならないためにも、ペットを一時的に預かってもらえる親類や友人などを事前に探しておきましょう。普段から飼い主同士のネットワークを作っておくと、いざというときに助け合うことができます。

